

苫小牧市立清水小学校学校だより

# 清水の子



『未来を創造する  
清水の子の育成』

◇学びを広げる子  
◇思いやりあふれる子  
◇たくましさみなぎる子

第 3 号 令和3年5月24日発行

TEL 33-7285  
simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

## 「いいところ」たくさん



校長 堀田 稔

花が咲き始め、景色の中にいろいろな色が見られるようになり、心も明るく、活動的な季節を迎えました。コロナ対策として高齢者への予防接種も始まりました。しかし、今年度はまだまだ、できないことや参加いただけないことが多いかと思えます。「人数や環境・小学生と中学生など」すべての条件が同じではないので、その時々状況を見ながら、判断してお知らせしたいと思っています。ご理解とご協力をお願いいたします。

### ◎清水小の子ども達

「マチコミ」や「おたより」で学校の様子を紹介していますが、子ども達の活動や行動で様々なことを目にして、うれしく思う場面が多くありました。その中から・・・。

### ○今までの努力の成果

～お世話～ 今年度、今のところ教室に入れる人数が決まっていますので、1年生の子ども達と先生の数を考え、6年生に毎日3名ぐらいずつ、「1年生のお世話」をお願いしています。机への道具入れから、自習のお世話まで、5年経つとこんなに来ることが増えるのか、と驚かされます。声掛けもとてもやさしく年下の子にもわかるように話をしているようです。「優しい行動ありがとう」

～努力による吸収力～ 毎日、子ども達から小学生時代の成長のすごさ「子ども達はスーパーマン・やろうとしたら何でもできる」を感じています。特に高学年の子ども達の今までの努力の成果を感じさせられています。どんどん自分から、いいと思ったことを進んで努力してやってみる力を、より一層身につけてほしいと思いました。「成長を見せてくれて、ありがとう」

### ○育っている心

～お先にどうぞ～ 毎朝、東玄関を開けると低学年の子は込み合っている自分も先に玄関に入ろうとします。中学年から高学年になると、低学年の子ども達が入るのを待っていてくれる、譲る「心の広さ」が多くみられ思わず「優しい気持ち、ありがとう」と声かけをしたくなります。また、通学路に落ちているごみを拾ってくれる6年生も朝、目にします。「みんなのために、ありがとう」

～大丈夫？～ 先日、玄関前で1年生がつまずいて転ぶと、周りにいた4・5年生の子ども達がさっと駆け寄り、手を伸ばし、声をかけ、ケガの有無を確認しているところを目にしました。そのおかげで1年生は泣くこともなく、安心した笑顔で教室に向かって行きました。「思いやりの気持ち、ありがとう」

日頃のご家庭での保護者の皆様の子どもの行動やしつけや会話から学び取り、地域や学校での経験も「豊かな心」を育てていることを実感しました。周りの人も自分も大切にできる心を今後も大切にしていってほしいと思います。

本年度の個人懇談にお忙しい中、多くの保護者のご来校をいただきありがとうございました。保護者の皆様とのコミュニケーションを大切にしながら、世の中でよく言われるように、人として成長している時は、できた結果や能力をほめるだけではなく、教職員一人ひとりが、子ども達の様子をしっかりと見て、何気ない日頃のことでも、努力したこと、頑張ったこと、意欲的な態度をほめ、子ども達のより良い成長につなげていきたいと考えています。